

第8次矢巾町総合計画
前期基本計画
(素案)

令和6年1月

【施策の柱①】

元気を発信し活力を呼び込むまちづくり

推進する施策

- ①－ 1 地域経済の好循環の構築
- ①－ 2 大きな伸び代がある地域産業のさらなる活性化
- ①－ 3 農業従事者と後継者の確保
- ①－ 4 農業経営近代化の推進
- ①－ 5 農福連携による雇用の促進
- ①－ 6 有害鳥獣被害対策の推進
- ①－ 7 農業者年金の加入促進
- ①－ 8 企業誘致のさらなる推進
- ①－ 9 中小企業振興の推進
- ①－ 1 0 産学官金連携による新事業の創出
- ①－ 1 1 次世代への勤労観・職業観の醸成並びに地域企業への就業促進
- ①－ 1 2 起業家の育成支援
- ①－ 1 3 西部地域の観光活性化
- ①－ 1 4 観光情報の発信強化
- ①－ 1 5 特産品の開発支援
- ①－ 1 6 移住促進と関係人口拡大
- ①－ 1 7 若者の参加促進

施策①－1

地域経済の好循環の構築

【現況と課題】

当町の地域経済循環図によると、地域内での雇用者所得が地域外へ流出している傾向があることから、町内の経済循環を高めるため、地域資源を最大限活用し、町内で消費する地産地消を促進する必要があります。

【施策の方向】

企業と企業、企業と顧客・消費者をつなぎ、地域内で消費促進につながるような機会を創出するなど、ヒト・モノ・カネが円滑に回り続ける持続可能な地域経済循環の実現を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
町が関連し町内事業者が参加する町内イベント回数	回	8	38	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



※施策ページ右上の 《新規》《継続》 の表示は、以下の区分を表しています。

- 《新規》…第8次総合計画からの新たな取り組みであるもの
- 《継続》…第7次総合計画から継続する取り組みであるもの

施策①-2

大きな伸び代がある地域産業のさらなる活性化

【現況と課題】

農業やヘルスケア産業等の当町に更に伸び代があると考えられる事業分野において、事業拡大を希望しているものの何らかの理由で障壁を感じている事業者への支援策の創設が必要となります。

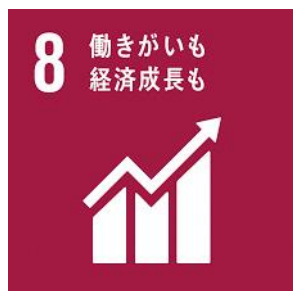
【施策の方向】

希望する事業者同士の事業体設立や、実績のある事業者とのマッチング等により、当町のポテンシャルを存分に生かしていただくための支援を実施します。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
企業体設立または事業者マッチング成立件数	件	0	2	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－③

農業従事者と後継者の確保

【現況と課題】

本町の基幹産業である農業を支えてきた農業者の高齢化が進み、事業継続が困難となる例も増えていることから、新たな就農者を増やしていくことが求められています。

【施策の方向】

新規就農者に対する給付金をはじめとする各種制度を活用し、新規就農者の確保に努めます。

また、知識及び技術の習得による資質の向上を図りつつ、農畜産物の高付加価値化による就農意欲の高揚を図るため、所得向上を目指す農業者を支援します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
新規就農者数	人	5	13	親元就農者を 含む。

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 4

農業経営近代化の推進

【現況と課題】

就農者が減少傾向にある中で、農地保全や担い手の確保、育成など多角的な視点から、本町の基幹産業である農業を守り育てていく必要があります。

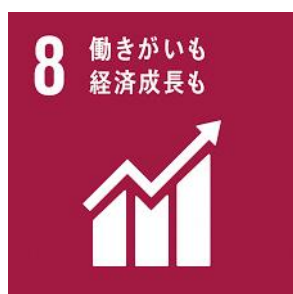
【施策の方向】

集落営農組織の法人化を推進するとともに、農業生産力及び農業所得の向上を図り、経営近代化を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
集落営農組織の法人化件数	件	9	11	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 5

農福連携による雇用の促進

【現況と課題】

就農者が減少傾向にある中で、農地保全や担い手の確保、育成など多角的な視点から、本町の基幹産業である農業を守り育てていく必要があります。

【施策の方向】

農業分野と福祉分野の連携によって、多様な個性を持つ人たちが農業の担い手として生き生きと働ける雇用の場の創出を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
福祉施設入所者とのマッチングに向けた取り組み件数	件	8	16	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－6

有害鳥獣被害対策の推進

【現況と課題】

近年、有害鳥獣（クマ、イノシシ等）による農作物被害が増加しているため、今後も資機材購入費用や免許取得費用に対する補助を継続的に行い、本町の基幹産業である農業を守り育てていく必要があります。

【施策の方向】

町内での有害鳥獣の出没に対し、電気柵・罠設置等効果的な対策を推進し、有害鳥獣（クマ、イノシシ等）による農作物の被害低減に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
有害鳥獣による農作物の年間被害額	千円/ 年	5,283	4,226	目標値は令和6～9年度の平均値とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 7

農業者年金の加入促進

【現況と課題】

農業者年金加入者が伸び悩んでおり、加入の促進が課題となっています。特に若い担い手に対しては保険料補助もあることから、対象者へのさらなる加入推進が必要です。

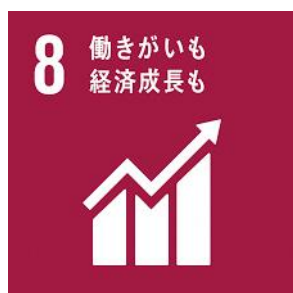
【施策の方向】

若年層及び女性の農業者年金加入者の増加を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
新規加入者数	人	1	5	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 8

企業誘致のさらなる推進

【現況と課題】

町内経済のさらなる活性化を促すため、新たな企業等を町内に積極的に誘致する必要があります。

【施策の方向】

企業誘致向けの土地の確保や既存の市街化区域内の土地を活かした誘致活動等を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
接触企業数	社	49	80	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 9

中小企業振興の推進

【現況と課題】

令和3年6月に矢巾町中小企業振興基本条例が制定されたところであり、条例の目的である「地域経済の持続的な発展」を図るためには、雇用や地域経済並びに町の活性化に果たす中小企業の役割について町民等への理解促進が必要です。

また、中小企業が経済的かつ社会的な環境の変化に対応のうえ持続的な経営力の向上を図るため、地域一体で連携し地域を支えている中小企業の振興を図る必要があります。

【施策の方向】

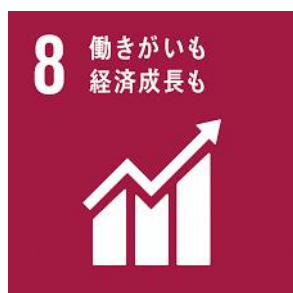
中小企業振興を推進するため、町民に向けて中小企業の存在意義を広く周知し、地域内で共有するほか、企業間連携を図り、地域の新たな仕事づくり雇用づくりを図ります。

さらに、中小企業における経営基盤の強化や経営の革新を図るため、共に学び合い共に育ちあう場を構築するほか、事業継続力の強化に向けた支援及び環境変化に適応した支援を行います。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
矢巾町企業連絡会の交流事業・研修事業等の件数	件	3	23	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－10

産学官金連携による新事業の創出

【現況と課題】

岩手医科大学や岩手県立産業技術短期大学校等の教育機関が充実している強みを生かし、産学官金連携体制の強化を図り、地域課題解決に向けた取り組みが必要です。

【施策の方向】

産学官金連携を推進し関係を強化することにより、新たな事業や雇用を創出するため、産学官金それぞれの強みを生かしながら、新分野を開拓し、挑戦できる環境を構築します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
産学官金連携の会議開催件数	件	1	17	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 1 1

次世代への勤労観・職業観の醸成並びに地域企業への就業促進

【現況と課題】

小学生及び中学生は、様々な職業について知ることで就業の選択肢を増やすとともに、適切な進路選択を促す取り組みが必要です。高校生及び大学生等は、地元企業の魅力や特色を伝え、地元への就業に向けた理解促進が必要です。

また、町出身者の県外就職など有望な人材の流出が続いており、町内事業者からは人材育成・人材確保への支援を求めるニーズが高く、産業活性化における喫緊の課題となっています。

【施策の方向】

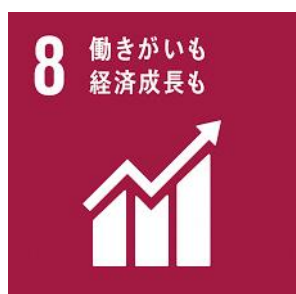
地域の小・中・高・大学と連携し、勤労観・職業観を醸成するため、地元企業の経営者及び社員等と関わり合うことで、生きる目的や働くことの意義を伝える機会を創出します。

地域企業や盛岡公共職業安定所等と連携しながら、地元就業を促進する相談会等を積極的に推進し、多様な人材が活躍できる就労環境を整備します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
小・中・高・大学生向けインターンシップ事業の参加者数	人	129	929	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－12

起業家の育成支援

【現況と課題】

経営者の高齢化や後継者不足を背景に、年々起業家が減少している中で、機運醸成の取組や新たな起業家の掘り起こし等、地域全体で起業家を支援する仕組みづくりが必要です。

【施策の方向】

起業家を生み出すマインドの醸成を図り活躍の場を創出するとともに、地域全体で起業家を応援する環境を構築します。

また、ビジネスモデルを変革し、地域や企業を支え、持続可能な発展を可能とする人間力や技術力を養う機会を創出し、起業の促進を図ります。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
創業支援補助金の実績件数	社	2	18	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 1 3

西部地域の観光活性化

【現況と課題】

矢巾温泉や町営キャンプ場、煙山ひまわりパークのほか、城内山、南昌山など自然景観を生かした地域の活性化を求める声が多くあり、西部地域の開発について検討が必要とされています。

【施策の方向】

町のシンボルである南昌山麓に広がる自然豊かな観光スポットと連携し、エリア全体としての魅力を発信しながら、人を呼び込む地域づくりを進めます。

また、民間事業者によるアスレチック施設と連携した事業の取り組みを検討します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
西部地域の観光客入込数	人/年	139,250	150,000	現状値はR4年度実績

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－14

観光情報の発信強化

【現況と課題】

岩手医科大学附属病院をはじめとした矢幅駅周辺の交流人口増加に伴い、町の特徴や魅力を効果的に発信する必要があるとともに、観光ニーズに対応した魅力の発信が必要です。

【施策の方向】

令和5年3月に矢幅駅に設置した地域情報発信ステーションを中心として、町内行事などの旬な情報を発信するほか、窓口対応などから観光ニーズのヒントを集約し観光の活性化に役立てます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
SNS等による情報発信数(地域情報発信ステーション)	回/年	48	50	現状値は令和5年度末見込値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－15

特産品の開発支援

【現況と課題】

矢巾ブランドを体現する商品が少なく、かつ町外で広く認知されている特産品が少ないことから、新たな特産品の開発を促進し、PRの強化を図る必要があります。

【施策の方向】

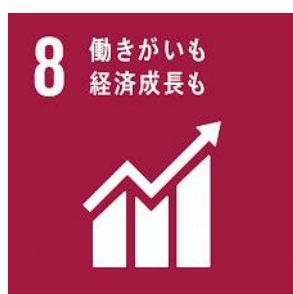
本町の魅力を県内外にPRするため、民間事業者等と連携しながら新たな特産品の開発を支援するとともに販路拡大を図ります。

また、町産農畜産物の良さに関する情報発信を強化し、矢巾ブランドの確立を目指します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
特産品開発件数	件	2	10	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－16

移住促進と関係人口拡大

【現況と課題】

町の人口は横ばい傾向にあり、今後当面の間は宅地開発による人口増加も見込まれますが、全国的に地方の人口減少がさらに進むと予想される中で、人口規模の維持・拡大に向けた対策を講じていく必要があります。

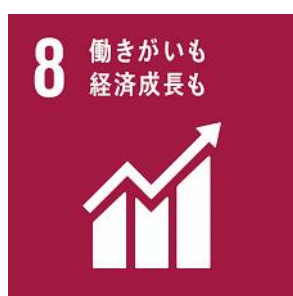
【施策の方向】

移住定住に向けた施策を強化し、町外からの転入者の増加に努めます。また、観光や物販等を通じて本町と関係性を有する町外の人を関係人口と位置付け、より良好な関係を継続的に構築し関係人口の拡大に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備 考
年間転入者数	人	1029	1100	現状値は令和2～4年度実績の平均値。目標値は令和6～9年度の平均値とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策①－ 17

若者の参加促進

【現況と課題】

若い世代のまちづくりへの関心と、積極的な参加への意向が確認できることから、若い世代が活躍できる場を拡大するとともに、その声をまちづくりに活かせる仕組みを検討する必要があります。

【施策の方向】

若い世代の意見を聞く場を設けるとともに、若者向けイベントの開催支援などを通じて、若者が地域社会の中でいきいきと活躍できる環境づくりを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
若者向けイベント開催件数	件	0	5	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



【施策の柱②】

誰一人取り残さない社会を目指すまちづくり

推進する施策			
②-1	SDGs の推進	②-24	生涯を通じた健康づくりの推進
②-2	地域コミュニティの在り方の見直し	②-25	地域協働による健康づくりの推進
②-3	新しいコミュニティへの支援	②-26	感染症予防の強化
②-4	障がいの有無によらない地域共生社会の促進	②-27	医療データ活用の推進
②-5	多様性と包摂性のある共生社会の実現	②-28	認知症への理解と支援の促進
②-6	平和維持への理解促進	②-29	高齢者福祉の推進
②-7	人権保護の徹底	②-30	子ども・子育て支援の充実
②-8	芸術・文化活動の推進の充実	②-31	児童虐待防止体制の充実
②-9	音楽のまちの推進	②-32	自殺対策の推進
②-10	フリモント町との国際交流の推進	②-33	福祉を支える人材の育成
②-11	男女共同参画の推進	②-34	生活相談支援体制の充実
②-12	男性の育児・介護休暇取得の推進	②-35	道路整備の推進
②-13	スポーツのまちの推進	②-36	河川の整備
②-14	競技スポーツの推進	②-37	町営住宅の在り方の検討
②-15	障がい者スポーツの推進	②-38	空き家対策の推進
②-16	個性を伸ばし、生涯にわたる学びを支え、持続可能な社会を担う人づくり	②-39	都市公園の整備の推進
②-17	学校・家庭・地域の連携を深め、心豊かにたくましく生きる人づくり	②-40	コミュニティ公園の在り方の見直し
②-18	青少年の健全育成	②-41	公共交通の充実
②-19	多様な世代に向けた学習機会の充実	②-42	消防・救急体制の充実
②-20	学習拠点のネットワーク化の推進	②-43	防災対策の充実
②-21	図書センターの蔵書充実	②-44	広域防災拠点整備の検討
②-22	妊娠・出産・子育てが安心してできる環境づくり	②-45	地域における避難体制の構築
②-23	高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進	②-46	流域治水による防災推進
		②-47	防犯対策の充実
		②-48	防犯灯の設置箇所の適正化
		②-49	消費者被害の防止
		②-50	交通安全対策の充実

施策②－1

SDGs の推進

【現況と課題】

町内における SDGs の認知は進んでおり、さまざまな主体による積極的な取り組みも行われていますが、2030 年の目標年に向けて全町的な運動として取り組みの輪をさらに広げていく必要があります。

【施策の方向】

行政が率先して SDGs の取組を進めながら、町内の事業者や町民に向けた周知啓発に力を入れ、さまざまな主体による SDGs 達成に向けた取り組みが加速されるよう支援を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
SDGs 推進に向けた周知啓発の取り組み件数	件	3	15	累積値

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②- 2

地域コミュニティの在り方の見直し

【現況と課題】

各地域において、少子高齢化や役員等のなり手不足が深刻な状況にあるコミュニティ組織も増えていることから、コミュニティを維持するための新たなつながりを模索し今後のコミュニティの在り方を考えていく必要があります。

また、新たな宅地開発や人口増により行政区再編が行われる地域においては、新しいコミュニティの形成が円滑に図られるよう支援する必要があります。

【施策の方向】

地域コミュニティが持つ住民同士の日常的な交流や支え合いなどの機能を将来にわたって維持し続けるため、今後の望ましいコミュニティの在り方について検討を行うとともに、各コミュニティ組織の現状や負担を考慮しつつ、町とコミュニティ組織の関係性や委託業務、補助事業等の在り方を見直し、適切なパートナーシップの構築に努めます。

新たに行政区再編が行われる地域においては、近隣コミュニティとも連携しながら地域コミュニティの形成を支援します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
コミュニティのあり方の見直し に取り組む行政区数	行政区	0	30	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-3

新しいコミュニティへの支援

【現況と課題】

個人の価値観やライフスタイルの多様化、町外からの移住者の増加が進む中、既存の地域コミュニティ以外の場においても住民同士のつながりを求めるニーズが高まっていることから、地縁によらないコミュニティの在り方や支援について検討する必要があります。

【施策の方向】

行政区単位のコミュニティ組織以外の場においても町民同士の新たなつながりを促進するとともに、そこから生まれるニーズをまちづくりにつなげていくため、共通の関心事や広域的連携など地縁によらない新たなコミュニティの創造に対する支援の在り方を検討します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
新たなコミュニティ創造に向けた支援実施件数	件	0	8	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-4

障がいの有無によらない地域共生社会の促進

【現況と課題】

障がいのある人が地域で安心して暮らしていくために、地域の人々が障がいと障がいのある人に対する理解を深める一方で、障がいのある人も必要な支援を受けながら、地域に積極的に参加するなど、相互理解のもとで共に生活できる社会の実現が求められています。

また、近年においては、重度化、重複化した課題を抱えた障がい者（児）や、難病疾患の方などへの対応も求められています。

【施策の方向】

誰もが障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら地域社会で共に暮らすことができるまちを目指し、相談体制の充実や理解促進のための啓発に取り組みます。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
障がいのある人への理解が深まってきていると思う割合	%	38.4	40	3年毎の障がい者等へのアンケート

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－5

多様性と包摂性のある共生社会の実現

【現況と課題】

誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現は世界共通の目標であり、障がいのある人と障がいのない人が同じ地域社会で共に暮らし、学び、働く共生社会の実現が求められています。

【施策の方向】

障がいのある人もない人も地域社会で共に暮らす社会の実現に向け、障がいに関する理解促進や多種多様な方々が交流できる機会の拡充に取り組み、心のバリアフリーの理解促進や情報アクセシビリティの向上を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
障がいに関する理解促進の場の設置回数	回/年	2	3	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－6

平和維持への理解促進

【現況と課題】

非核平和の町宣言に基づき、世界平和の実現に向け、平和の尊さへの理解を深める取組を進める必要があります。

【施策の方向】

非核平和の町宣言の精神を踏まえ、平和に対する町民の意識の高揚を図るため、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に伝えるための啓発に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
平和に関するイベント等の年間参加者数	人/年	110	150	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 7

人権保護の徹底

【現況と課題】

社会全体で人権に関する意識が高まっている一方で、近所のトラブル、家族内の問題、いじめや体罰、職場でのハラスメント等の人権侵害に関わる問題が複雑化・多様化しています。また、LGBTなど性的マイノリティの方に対する配慮なども課題となっている状況を踏まえ、人権保護のさらなる徹底が必要です。

【施策の方向】

町内において人権侵害が発生しないよう住民への意識啓発を図るとともに、いじめ等の撲滅を目指し、かけがえのない命を守る心を育む取り組みを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
人権保護に関するイベントの開催数	回	8	12	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 8

芸術・文化活動の推進の充実

【現況と課題】

芸術文化団体の高齢化や活動の停滞が課題となっており、活動の継承やこれからの時代に合った芸術文化振興の在り方を考えていく必要があります。

【施策の方向】

様々なジャンルの芸術・文化活動を、幅広い年代に周知を行い参画を促すことで、芸術文化活動の活性化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
芸術祭来場者数	人/年	870	1,000	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 9

音楽のまちの推進

【現況と課題】

平成 28 年に「音楽のまち やはば」を宣言し、全ての町民が気軽に音楽を楽しんだり、音楽を通じて交流を図ることができる環境づくりの拡充が求められています。

【施策の方向】

音楽イベントなどの機会を増やし、誰でも気軽に音楽に親しむことができる環境づくりを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
音楽祭来場者数	人/年	750	1,000	

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－１０

フリモント町との国際交流の推進

【現況と課題】

平成３年から始まったアメリカ合衆国フリモント町との交流事業は、現在も交流が続いていますが、主に中高生同士の交流となっていることから、幅広い世代の町民が参加できる交流の在り方を検討する必要があります。

【施策の方向】

現在の良好な友好関係を継続するとともに、幅広い世代の参加やさまざまな地域との交流の在り方を検討します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和５年度)	目標値 (令和９年度)	備考
国際交流ふれあい広場参加者数	人/年	20	40	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-11

男女共同参画の推進

【現況と課題】

田園都市やはば第2次男女共同参画プランに基づき、男女共同参画の啓発や女性の社会参画の推進を行っていますが、現在においても根強い固定的性別役割分担や地域活動における性別や年代の偏りがあり、その解消を図ることが求められています。

【施策の方向】

男女共同参画に関する周知を強化し、地域社会全体での理解が促進されるよう努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
男女共同参画サポーター養成人数	人	32	48	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－12

男性の育児・介護休暇取得の推進

【現況と課題】

男性の育児休暇や介護休暇の取得促進に向けて令和4（2022）年に育児・介護休業法が改正されましたが、企業により対応状況に差があるため、町全体で男性の育児休暇や介護休暇の取得がしやすい環境づくりが求められています。

【施策の方向】

町内で男性の育児休暇や介護休暇の取得が促進されるよう啓発に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
男性の育児・介護休暇取得促進のための情報発信件数	件	2	10	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-13

スポーツのまちの推進

【現況と課題】

平成31年に「スポーツのまち やはば」を宣言し、全ての町民が気軽に運動を楽しんだり、スポーツ・レクリエーションを通じて交流を図ることができる環境づくりの拡充が求められています。

【施策の方向】

誰でも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの機会づくりや、遊歩道など日常的に自然に体を動かせる環境づくりを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
スポーツ交流イベント参加者数	人/年	700	1,000	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-14

競技スポーツの推進

【現況と課題】

本町の選手が岩手県民体育大会等の多くの種目で活躍しており、引き続き幅広い種目の競技力向上を図ることが求められています。

【施策の方向】

東京オリンピック・パラリンピックの各種成果も活用しながら、種目別競技団体の活動を推進することにより、競技スポーツの振興を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
県民体育大会出場競技数	競技/ 年	18	20	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-15

障がい者スポーツの推進

【現況と課題】

年齢や性別、個々の特性の違いをお互いに理解し尊重しあえるまちづくりの手段として、障がい者スポーツの推進が求められています。

【施策の方向】

誰もが能力に応じて取り組むことができるスポーツのすそ野を広げ、選手が高みを目指すことを支援する観点から、障がい者スポーツの普及を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
障がい者スポーツ普及イベント 参加者数	人/年	93	200	

【SDGsゴールとの関わり】



個性を伸ばし、生涯にわたる学びを支え、持続可能な社会を担う人づくり

【現況と課題】

学校教育がこれまで目指してきた「生きる力」の育成に加え、子どもたちが自分の良さや可能性を尊重されるとともに、持続可能な社会の創り手として、多様な人々と協働しながら、変化を前向きに受け止め、予測不可能な社会を自立的に生きていく資質・能力を育てていくことが必要となります。

また、特別支援教育やいじめ、不登校などの多様な教育課題へのきめ細やかな、子どもたち一人一人の状況に応じた対応や、従来より必要とされてきた授業力に加え、学校教育を取り巻く新たな変化に対応できる力量を高めることが必要となります。

【施策の方向】

これまでの学校教育の中で育まれてきた「生きる力」や、その中で重視されてきた知・徳・体の育成の現代的な意義を改めて捉え直し、生涯にわたって自分の夢に向かい、その可能性に向かって挑戦するために必要な力を、保育園・こども園と小学校の連携、小学校と中学校の連携を重視し、幼児期の教育と中学校区における小中連携をより充実させ、義務教育9年間を見通し計画的・系統的に育てていきます。

教職員の指導力向上に努めるとともに、働き方改革や教職員のサポート体制の強化を進め、元気溢れる教職員の育成とあわせ、子どもたちの学習活動の基盤となる安全安心で、良好な施設の整備のほか、ICT 機器等の活用を推進するなど、質の高い教育活動を可能とする環境の整備に取り組みます。

また、「矢巾町立学校の再編に関する基本方針」に則り「学校再編整備計画」を策定します。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の割合	%	小学生 23 中学生 33	小学生 27 中学生 37	
PC、タブレットなどの ICT 機器を週3日以上使用した割合	%	小学生 42 中学生 33	小学生 50 中学生 41	
いじめはいけないと思う児童生徒の割合	%	小学生 84 中学生 85	小学生 88 中学生 89	
自分の住む地域には、良いところがあると思う児童生徒の割合	%	小学生 61 中学生 45	小学生 65 中学生 49	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 1 7

学校・家庭・地域の連携を深め、心豊かにたくましく生きる人づくり

【現況と課題】

子どもたちが健やかに成長するためには、学校はもとより、家庭や地域が教育の場としての役割を担い、地域全体で子どもたちを育てることがより一層重要となります。

【施策の方向】

学びを支える家庭・地域と学校が課題を共有し、パートナーとして連携しながら、子どもたちが地域社会との様々な関わりを通じて、安心して活動できる居場所づくりや地域全体で子どもたちを育む学校づくりに取り組みます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
学校経営への参画における満足度	-	-	3.2	4段階評価値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－18

青少年の健全育成

【現況と課題】

急速に進む少子高齢化や情報化、価値観の多様化などによる青少年のコミュニケーション能力の低下が懸念されており、学校と地域が連携した環境での人づくりの重要性が高まっています。

【施策の方向】

教育振興運動、コミュニティスクールなどを通して学校と地域の連携体制を確立するとともに、地域の人材を活用し、地域社会全体の教育力の向上を図りながら、青少年の健全育成に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
教育振興運動の実践活動地区数	地区	42	45	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 1 9

多様な世代に向けた学習機会の充実

【現況と課題】

現在、矢巾町公民館では各種講座を開催しており、また、自主学習グループが積極的に活動していますが、受講生やメンバーの固定化や高齢化が進み、新規利用者の参加によって学習活動を活性化する取り組みが必要とされています。

【施策の方向】

公民館をあまり利用していない若い世代を中心に、幅広い世代のニーズに応じた多様な学習機会の提供に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
若い世代を対象とした講座の参加者数	人/年	240	400	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－２０

学習拠点のネットワーク化の推進

【現況と課題】

本町では社会教育施設である矢巾町公民館で各種講座を開催していますが、開催場所の偏りにより遠方の町民が参加しにくい状況にあります。

【施策の方向】

専門的な知識を持つ社会教育指導員が自治公民館における活動の助言を行うなど、自治公民館を活用して幅広い学習ニーズに応えられる体制づくりを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
公民館自主事業参加者数	人/年	600	750	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 2 1

図書センターの蔵書充実

【現況と課題】

図書センターの蔵書冊数は令和4年度末時点で73,767冊であり、引き続き蔵書の充実を図る必要があります。

【施策の方向】

利用者の要望や利用傾向を踏まえながら蔵書の充実に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
図書センター蔵書数	冊	75,000	90,000	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－２２

妊娠・出産・子育てが安心してできる環境づくり

【現況と課題】

出生数は減少傾向にありますが、宅地開発に伴い、新たに子育て世代の転入が増加傾向にあります。核家族化や家庭環境が複雑な世帯の増加、晩婚化等、身近に相談できる支援者がいない家庭が増え、家族や地域で妊産婦とその子育て世帯を支える力が弱くなっています。

安心して妊娠・出産・子育てができるよう、妊娠期から子育て期に渡って切れ目なく相談・支援する体制を整備する必要があります。

【施策の方向】

関係機関と連携しながら、妊娠期から子育て期に渡って子育て支援を切れ目なく、ワンストップで提供、相談・支援する体制を継続して確保し、きめ細やかな支援を行います。

また、産後ケアに係るサポートの充実や、産後の家事援助などの支援を行い、安心して子育てができる環境の確保に取り組みます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
1歳6か月児健診受診率	%/年	97	100	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 2 3

高齢者の生きがいがづくりと社会参加の促進

【現況と課題】

高齢者が元気に自立した生活を送り、人生経験を生かしたボランティア等の地域貢献や就労継続、趣味活動を通じて生きがいを感じながら、安心して長く暮らせる地域づくりが求められています。

また、他者との交流により相互に守られる環境づくりや、気軽に困りごとを話し合える場の醸成も必要とされています。

【施策の方向】

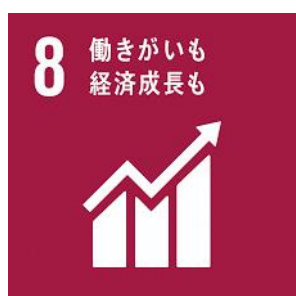
地域で他者との関わりを持ちながら、安心して暮らすことができるように、地域住民の活動の場を増やしていくための支援に重点を置いて事業展開を進めます。

エン(縁)ジョイネットワークを活用する地域団体の増加や、生活支援コーディネーターによる居場所づくりと橋渡しを通じて、活動の場と地域との関わりを増やし、社会参加の機会の創出に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
地域の居場所がある行政区数	箇所	31	45	エン(縁)ジョイネットワーク、通いの場等 累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－２４

生涯を通じた健康づくりの推進

【現況と課題】

健康づくりの基礎として、自らの健康状態を把握して、早期発見及び治療等を行うためにも、健診（検診）を受けることが重要であり、特定健診及び各種成人検診の受診率を高める必要があります。

【施策の方向】

生涯を通じた健康づくりの推進に向け、すべての町民の意識向上を図りながら、必要な健診（検診）及び医療等を受けられるよう保健活動を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
特定保健指導実施率	%/年	37	49	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 2 5

地域協働による健康づくりの推進

【現況と課題】

新型コロナウイルス感染症流行後、保健推進員や食生活改善推進員の対面による健康づくり事業活動回数は減少し、新たな感染症対策を踏まえた地域協働による健康づくりの在り方が求められています。

【施策の方向】

健康知識の普及啓発を推進しながら、町民一人ひとりが「自分の健康は自分でつくる」意識を醸成します。

生涯を通じた健康づくりに取組むために、健康増進サポーターの養成と組織活動の支援の強化、感染対策を継続しながら地域と協働で町民参加型の健康づくりに取り組みます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
健康づくり事業活動参加者数	人/年	502	940	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 2 6

感染症予防の強化

【現況と課題】

新たな感染症の発生や、結核など旧来の感染症の蔓延に備え、結核検診や各種予防接種を安全かつ安心して受けられる体制の確保に継続的に取り組む必要があります。

【施策の方向】

予防接種を受けることができる体制の充実を図り、特に定期予防接種の接種率向上に向けた取り組みを強化します。

また、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症への備えとして備蓄物品の確保と対策のための体制確保を行い、新たなワクチン接種への恒常的な対処能力の向上に努めて感染症予防の強化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
乳幼児（麻しん風しん第1期） 予防接種接種率	%/年	88.8	98	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 27

医療データ活用の推進

【現況と課題】

重複受診、頻回受診、多剤服用や過度なサービス利用の適正化が求められています。医療等のデータ分析結果を健診等に適切に活用しながら、重症化予防に取り組み、生涯の健康を支援する必要があります。

【施策の方向】

医療データの分析結果を健康づくり事業に活用する仕組みづくりを進め、客観的なデータを本人に提供することなどで、自身の健康管理を支援します。

また、データ分析で得られた知見を生かして、町民の生涯の健康を支援し、重症化予防も含めた保健指導を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
特定健診受診者の生活習慣病未治療者への受診勧奨の実施率	%/年	95	100	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 28

認知症への理解と支援の促進

【現況と課題】

高齢化に伴い認知症になる人の増加が想定されます。

認知症があってもなくても、誰もが希望を持ち、安心して暮らし続けることができるよう、周囲の理解促進を図ることが必要であり、認知症バリアフリーに配慮したまちづくりを推進することが求められています。

【施策の方向】

認知症であっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、サポーターの養成などを通じて認知症に対する理解醸成を推進し、認知症の方と家族も社会参加できる地域づくりを推進します。

また、認知症の方と家族に対する支援の充実を図り、地域での見守り体制の構築や、行方不明者の発生時における捜索体制の整備やフォローを強化します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
認知症サポーター養成者数	人	8,277	11,000	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 2 9

高齢者福祉の推進

【現況と課題】

核家族化や一人暮らし世帯の増加、少子高齢化、転入出の増加などにより、地域の中で住民同士の結びつきが弱まり、コミュニティの弱体化が進んでいます。

町や関係機関がネットワークを形成して高齢者の見守りや支援を行う体制づくりを進めるとともに、日常的に住民同士がつながり、隣近所で支え合うことができる仕組みづくりが必要です。

【施策の方向】

町や地域の関係機関、事業者などが一体となった高齢者の見守りネットワークを形成し、異変を察知した場合に速やかに支援につなげられる体制の構築と強化を図ります。

また、地域の中に住民同士が日常的に関わりを持てるような居場所づくりを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備 考
生活支援協議会における多機関での地域課題の共有及び検討の実施回数	回	3	15	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－30

子ども・子育て支援の充実

【現況と課題】

社会状況の変化により、核家族化が進み、共働き世帯も増加している中、家族形態が多様化し、保護者のニーズに対応した子育て支援が必要となっています。

そのため、適切な教育・保育サービスの提供体制の確立、子育てに関する相談や情報提供などの支援体制を充実することが求められています。

【施策の方向】

関係機関との連携により、地域全体で子育てを支援する体制を強化し、妊娠期から子育て期全般にわたる切れ目のない支援を強化します。

また、保護者のニーズを的確に捉え、適切な教育・保育サービスの提供や放課後児童健全育成事業、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
現在の矢巾町の状況への満足度 (出産・子育て・育児への支援)	%	28.1	50	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 3 1

児童虐待防止体制の充実

【現況と課題】

社会状況の変化により核家族化が進み、共働き世帯も増加して家族形態が多様化する中、さまざまな事情から児童虐待に及んでしまう事例が全国的に増加しています。

本町でも核家族化が進みつつあり、児童虐待を防止するための体制づくりが求められています。

【施策の方向】

こども家庭センターを設置し、家庭や地域をはじめ、教育、保健及び福祉機関との連携を強化するとともに、横断的な連携による相談体制、支援の充実に努めます。

また、児童虐待防止及びヤングケアラーに関する知識の普及啓発に努め、子ども自身が自ら SOS が出せるような環境づくりに努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
こども家庭センターの設置数	箇所	0	1	累積値

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－ 3 2

自殺対策の推進

【現況と課題】

町内の自殺者数は、平成 17 年までは、10 人を超えていましたが、その後減少傾向となっており、5 年平均死亡率は令和 3 年時点で 18.3 であり、年々減少傾向にあるものの、全国及び岩手県の自殺死亡率を上回る状況が続いています。

誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指した取り組みを関係機関とともに継続的に強化していく必要があります。

【施策の方向】

町民一人ひとりのかけがえのない命を守るため、「いのち支えあうやはば」を基本理念とし、自殺死亡率の減少に向けて関係機関と連携しながら、地域におけるネットワークの強化、正しい知識の普及啓発、ゲートキーパー養成講座等により人材育成の強化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
ゲートキーパー養成講座の年間参加者数	人/年	140	160	

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－ 3 3

福祉を支える人材の育成

【現況と課題】

福祉制度や福祉思想の周知啓発を図るため、町や地域の実施する事業の協力者を増やすことを目的に、矢巾町社会福祉協議会と連携しながらさまざまな行事や研修会・講習会等に取り組んでいます。幅広い町民の参加に向けてより一層の働きかけが必要となっています。

【施策の方向】

研修会や講習会等の参加者が気軽に参加できるように、興味や関心を持ちやすいテーマ設定を行うほか、対象者や目的に応じて、関係機関と連携しながら、ボランティア講座やキャップハンディ体験、人権教室などの町民向けの福祉教育を推進し人材育成の強化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
福祉担当課が行う人材養成を目的とした研修会・イベントの企画件数	件/年	4	6	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－34

生活相談支援体制の充実

【現況と課題】

働き方の多様化、家族観や結婚観の変化、人口動態や経済環境の変化、社会的孤立や相対的貧困の社会問題化などに伴い、個人・世帯の抱える生活課題は年々複雑化・複合化しています。

また近年は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰等の影響により、多様な支援が求められています。

分野別の支援体制では対応が困難な相談が増えていることから、包括的な支援体制の構築が必要となっています。

【施策の方向】

重層的支援体制整備事業と連動し、属性や世代、相談内容に関わらずさまざまな生活相談に対応できる包括的な相談支援体制の構築を進め、介護、障がい、子育て、生活困窮分野の各専門部署や関係機関が連携を図りながら支援に取り組みます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
受理した相談の終結率	%/年	78.7	80	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 3 5

道路整備の推進

【現況と課題】

岩手医科大学附属病院移転開院後、町内全域で交通量が増加していることから、町道の計画的な補修や改良を進めるとともに、歩道が未整備となっている1・2級町道の整備など、円滑な道路交通網の維持に努める必要があります。

また、国道4号盛岡南道路が周辺道路に及ぼす影響がまだ明らかでないことから、これを早期に見極めることが大きな課題です。

【施策の方向】

町内の主要道路や生活道路、歩道などについて、交通量や地域の要望を踏まえつつ、緊急性や必要性などの観点から優先度を考慮し補修や改良などを進めます。

また、国道4号盛岡南道路の整備計画について道路計画の情報収集を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
町道改良率	%	36.1	36.4	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－36

河川の整備

【現況と課題】

日常的な維持管理に加えて、近年の気象条件の変化を受け、河川の計画的整備が必要とされているため、県が実施している一級河川の整備と併せて、河川整備の他に内水防災についても検討していく必要があります。

【施策の方向】

県が進める一級河川改修を計画的に進めるとともに、北上川の無堤防区間の早期解消に向けて関係機関への働きかけを進めます。

また、地域住民の協力を得ながら河川の浚渫や雑物除去など適切な維持管理を継続します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
基幹河川整備進捗率	%	77	80	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 3 7

町営住宅の在り方の検討

【現況と課題】

町営住宅の老朽化が進み大規模修繕が必要な施設が多くあります。

また、築年数が60年を超えて改修が難しい施設もあることから、今後の町営住宅の在り方について検討が必要となっています。

【施策の方向】

既存の町営住宅に関しては、入居者の状況にも配慮しつつ適切な維持管理に努めます。

また、供給戸数を含め町営住宅の在り方を見直すとともに、その具体的な供給方法について方策を検討します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
既存住宅に対する長寿命化計画の見直し実施率	%	0	100	長寿命化計画の見直しをもって100%とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 3 8

空き家対策の推進

【現況と課題】

空家等対策の推進に関する特別措置法が改正され用途変更規制が緩和されましたが、町内の空き家は今後さらに増加すると見込まれます。

また、市街化調整区域の空き家に関しては、既存建築物の用途変更に制限があり解消に時間が掛かることから、所有者に向けて早期対応の必要性を周知する必要があります。

【施策の方向】

町内の空き家所有者等に対して適切な情報の周知を図り、所有者等による適切な管理が図られるよう努めます。また管理不全の空き家が解消されるよう利活用促進を支援します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
空き家解消件数	件	11	22	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－ 3 9

都市公園の整備の推進

【現況と課題】

都市公園については、経年劣化が進んでいることから大規模改修が必要となっています。危険個所を早期に把握し、修繕と併せ公園利用者の安全を確保する必要があります。

【施策の方向】

各公園の危険個所の把握に努め、利用者の安全確保を図るとともに、計画的な改修を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
都市公園長寿命化計画の見直し実施率	%	0	100	都市公園長寿命化計画の見直し完了をもって100%とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策②-40

コミュニティ公園の在り方の見直し

【現況と課題】

コミュニティ公園に設置された遊具の老朽化が進み撤去が必要な遊具も増えている一方で、新たな遊具の設置を求める声もあり、今後の少子高齢化の進展も考慮しつつ望ましい在り方を検討する必要があります。

【施策の方向】

コミュニティ公園の遊具設置や管理運営のあり方に関しては多様な考え方があることから、さまざまな関係者と話し合いを行い、今後の望ましい遊具設置の在り方について検討します。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
遊具に関するコミュニティとの意見交換の実施回数	回	0	15	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４１

公共交通の充実

【現況と課題】

旧コミュニティバス「さわやか号」の廃止や免許返納者の増加などを背景に、公共交通の充実を望む声が高まっています。民間交通事業者においても厳しい状況が続いているため、路線の廃止や便数を削減せざるを得ない状況にあり、地域の公共交通サービスの維持が難しくなりつつあります。

【施策の方向】

高齢者や免許返納者等の支援策として、市街地循環型コミュニティバスやデマンド型交通など公共交通の充実を図り、交通弱者へのきめ細かい対応を推進します。

また、公共交通の利用促進について積極的な周知を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
公共交通の年間利用者数	人/年	19,755	21,000	市街地循環型 コミュニティ バス・デマン ド型交通

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４２

消防・救急体制の充実

【現況と課題】

岩手医科大学附属病院周辺の開発や国道４号盛岡南道路の整備、町中心部への更なる人口密集や交流人口の増加、農村部の過疎化と少子高齢化等の今後の課題を踏まえ、常備消防力の充実が求められます。

町に必要な消防力確保の観点から、消防ポンプ自動車の稼働率の維持・向上を図るため、老朽化した消防ポンプ自動車を更新する必要があります。

消防団に関しては、少子高齢化や就業形態の多様化に伴い、団員が減少傾向にあります。

【施策の方向】

計画的に消防ポンプ自動車の更新を継続するとともに、令和３年度に実施した広域消防体制の在り方に関する提言の実現に向け、盛岡地区広域消防組合本部及び関係市町と所要の調整を進めます。

また、新たな消防団員確保のため、団員の処遇改善、積極的な新団員募集活動（女性や学生等新たな層の開拓）の実施、訓練内容の見直し、消防活動装備品の充実を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和５年度)	目標値 (令和９年度)	備考
消防ポンプ自動車の更新率	%	84.6	100	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４３

防災対策の充実

【現況と課題】

今後の防災・減災対策を進める上で、各地域で「自らの命は自らが守る」、「日頃の備えと早めの避難」を合言葉に、自主防災組織の活性化や防災に関する知識の普及を図る機会を充実することが必要とされています。

令和４年度末までに 111 名の防災士を養成しましたが、育成した防災士のフォローアップを図るとともに、今後は、女性の積極的な参画により、防災対策への女性の視点を取り入れていくことが求められています。

【施策の方向】

自主防災組織の更なる活性化のため、地域における防災活動を積極的に支援します。

また、防災活動への女性の参加を促進し、新たな防災士の養成を継続するとともに、養成した防災士のスキルアップ講座を充実し、地区における防災リーダーとしての実践力の向上を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和５年度)	目標値 (令和９年度)	備考
地区等が計画する防災活動への支援の実施回数	回/年	5	10	

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－４４

広域防災拠点整備の検討

【現況と課題】

盛岡広域圏 8 市町による「みちのく盛岡広域都市圏ビジョン」に基づき、広域での共同事業等を協議・実施する体制が整備されていることから、圏内の自治体等と連携して広域圏の発展に努めることが求められています。

【施策の方向】

岩手医科大学附属病院の存在や国道 4 号盛岡南道路の整備により、今後の交流人口の更なる増加が予測されることに伴い、災害・救急対応件数が増えることが懸念される中、盛岡広域圏の中で広域的観点から本町への消防・救急体制の拠点整備に関する検討を進めるとともに、関係機関への提言・要望を行います。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備 考
広域的な消防・救急体制の拠点整備に関する検討及び提言（要望）の実施率	%	0	100	検討及び提言の実施をもって 100% とする。

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－４５

地域における避難体制の構築

【現況と課題】

全国各地で大規模災害が頻発するなかで、本町においても避難情報が発令される機会が増加しています。

災害時の避難に支援や配慮を要する避難行動要支援者名簿の個人情報提供同意率は約 35%に留まっており、優先度の高い方から順次、実効性のある個別避難計画の策定を推進する必要があります。

【施策の方向】

避難行動要支援名簿及び個別避難計画の整備促進のため、機会あるごとに制度の周知や対象者への働きかけを行い、個人情報提供同意率の向上を目指すとともに、避難支援等の実施に必要な情報提供の方法を検討し、避難にあたっての個別計画の策定を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
災害時避難行動要支援者に係る 個人情報提供同意率	%	34.57	50	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４６

流域治水による防災推進

【現況と課題】

世界的に気象条件の悪化が進行する中、予想外の水害等の発生に備えるため、流域治水の考え方を取り入れた防災・減災への備えの強化を図る必要があります。

【施策の方向】

流域治水の取り組みとして田んぼダムの導入促進を図るため、農業者の周知と多面的直払制度を活用した取り組みを進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
田んぼダム導入地区数	地区	2	5	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４７

防犯対策の充実

【現況と課題】

交流人口が増加傾向にあることから、これまで取り組んできた防犯体制の強化や防犯活動の支援を継続するとともに、防犯対策のさらなる強化、犯罪発生状況の情報提供などを実施し、町全体の防犯意識を高める必要があります。

【施策の方向】

防犯分野における自助・共助を強化するため、住民主体の防犯活動の推進、支援を積極的に図ります。

今後見込まれる交流人口の増加に対応するため、警察や各防犯関係団体との連携を強化し、犯罪発生抑止活動の推進、町内における特殊詐欺被害やインターネット犯罪の防止対策、子どもが犯罪被害に遭わないための見守り活動、各種媒体を利用した情報提供などを徹底し、犯罪の未然防止対策の強化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
住民参加型の地域安全・防犯に係る活動の実施回数	回/年	2	4	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－４８

防犯灯の設置箇所の適正化

【現況と課題】

町内には約 1,500 基の防犯灯が各コミュニティにより設置されていますが、通行者等から防犯灯が少ないとの声が多く、真に必要な箇所への設置が図られるよう取り組みを進める必要があります。

【施策の方向】

コミュニティと連携を図りながら、各地域における適切な防犯灯の設置位置の洗い出しを進めます。

また、コミュニティに対して防犯灯の設置費用や電気料を補助することにより、必要箇所への設置が図られるよう努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
各行政区における防犯灯設置位置見直しの実施割合	%	0	100	

【SDGs ゴールとの関わり】



施策②－４９

消費者被害の防止

【現況と課題】

架空請求や送り付け商法などによる消費者被害が後を絶たず、また、SNS上の広告をきっかけとする通信販売の定期購入トラブルの増加や若年層のインターネットゲームの課金に関する相談も増えています。

現在は盛岡広域市町により共同設置した消費生活センターを中心として、相談支援、啓発活動を実施していますが、町としてもさまざまなメディアを活用しながら情報発信を行っていく必要があります。

【施策の方向】

広報誌、ホームページ、やはラヂ、各種 SNS 等を活用して、消費者行政に関する情報の発信に努めるとともに、専門機関への相談の必要がある場合には、消費生活センターや専門相談ダイヤルに速やかに伝達する仕組みを整え、消費者の保護に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
消費者被害防止に関する情報発信回数	回/年	5	8	

【SDGsゴールとの関わり】



施策②－50

交通安全対策の充実

【現況と課題】

岩手医科大学周辺の開発や矢巾スマート IC の利用者の増加、新たな宅地開発や国道 4 号盛岡南道路の整備等により自動車交通量のさらなる増加が見込まれ、主要幹線道路を中心に歩行者が危険を感じる速度で走行する車両の増加が懸念されることから、交通安全対策の強化が必要となっています。

【施策の方向】

今後のまちづくりや国道 4 号盛岡南道路の整備に伴う交通量の変化等を見極めながら、信号機や横断歩道などの交通安全施設の設置、ゾーン 30 プラスの導入など必要な交通規制について、矢巾町交通安全対策協議会を通じ関係機関に対して要望します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
交通安全施設改善要望に係る協議等の実施回数	回/年	1	3	

【SDGs ゴールとの関わり】



【施策の柱③】

豊かな環境を守り伝えるまちづくり

推進する施策

- ③-1 脱炭素、カーボンニュートラルに向けた取組推進
- ③-2 農地と田園風景の保全
- ③-3 農地等の利用の最適化の推進
- ③-4 自然に親しむ機会の増加
- ③-5 生活環境の保全及び環境美化
- ③-6 ごみ処理広域化に向けたごみの減量化及び資源化の推進
- ③-7 歴史的資産の調査と情報発信の推進
- ③-8 国指定史跡徳丹城跡の魅力発信
- ③-9 伝統芸能の後継者育成支援

施策③-1

脱炭素、カーボンニュートラルに向けた取組推進

【現況と課題】

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、社会全体の課題として化石燃料依存からの脱却と再生可能エネルギーへの転換が求められています。

【施策の方向】

脱炭素社会及び「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、町民・企業との協働によりグリーントランスフォーメーション（GX）を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
重点対策加速化事業による再エネ発電量	kW	33	1500	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－ 2

農地と田園風景の保全

【現況と課題】

就農者が減少傾向にある中で、農地保全や担い手の確保、育成など多角的な視点から、本町の基幹産業である農業を守り育てていく必要があるほか、町内に広がる田園風景を維持し続ける必要があります。

【施策の方向】

多面的機能支払交付金を活用し、地域ぐるみで農地や農業用施設等の保全管理に努めます。また、国や県の補助金等を活用できる施策を実施し、林地の保全を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
多面的機能支払交付金事業対象農用地面積	ha	2,060	2,060	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－3

農地等の利用の最適化の推進

【現況と課題】

農業者の高齢化が進み、将来的に農業者の減少等による遊休農地の増加が懸念されることから、担い手への集積・集約及び新規就農を促進していく必要があります。

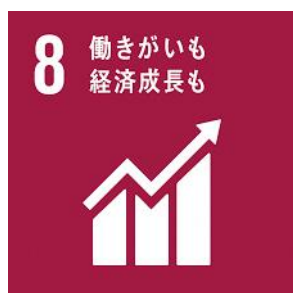
【施策の方向】

地域計画に基づき、将来の農地等の利用について最適化の推進を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
農業委員の最適化活動月間平均 日数	日/人	4	10	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－４

自然に親しむ機会の増加

【現況と課題】

ライフスタイルの変化や市街地の開発などによって、人々が自然に親しむ機会が減少していることから、身近に自然とふれあうことができる環境や機会を増やし、自然を大切にする心を育んでいく必要があります。

【施策の方向】

町内の豊かな自然に親しむことができる、野外活動などの体験学習の機会を増やします。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
野外活動講座の参加者数	人/年	45	80	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－5

生活環境の保全及び環境美化

【現況と課題】

町内において企業の事業活動による悪臭などの苦情が寄せられており、適切な環境保全に向けた指導や対策が求められています。

また、不法投棄が多発している箇所に監視カメラを設置するなどの対策をしていますが不法投棄がなくなる状況です。

【施策の方向】

臭気、騒音、河川の水質等の生活環境を保全するための施策を講じるとともに、必要に応じて原因者への助言等を行い、公害の防止を図ります。また、パトロールや広報の強化などにより不法投棄の未然防止に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
不法投棄回収量	kg/年	120	70	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－ 6

ごみ処理広域化に向けたごみの減量化及び資源化の推進

【現況と課題】

令和 5 年 2 月に盛岡広域環境組合が設立され、令和 14 年度からの新たな焼却施設稼働に向けた準備が進んでいることを踏まえ、ごみ処理にかかる負担金の抑制に取り組む必要があります。

【施策の方向】

新しいごみ処理広域化の体制構築に向けた取り組みを関係市町と連携しながら進めます。

また負担金抑制のため、製品プラスチックを含めた分別品目の見直しの検討、3 R を柱としたごみの減量化及び資源化への取り組みを推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
家庭系ごみの減量化率	%	0.7	5	R3 を基準年度とした減量化率

【SDG s ゴールとの関わり】



施策③－ 7

歴史的資産の調査と情報発信の推進

【現況と課題】

町内には数多くの歴史的価値の高い遺跡がありますが、町内外にまだ十分知られていない遺跡も多いことから、その価値を明らかにするとともに、周知や環境整備を強化していく必要があります。

【施策の方向】

伝法寺館跡をはじめとする遺跡について歴史的事実や伝説的事象を含む観点から調査を行い、その結果の周知や環境整備に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
町民向けの説明会、学習会の参加者数	人/年	31	100	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－ 8

国指定史跡徳丹城跡の魅力発信

【現況と課題】

国指定史跡徳丹城跡については、これまでの調査研究でその実態や歴史的価値が明らかになりつつあり、町内外に向けてその魅力の発信を強化することが求められています。

【施策の方向】

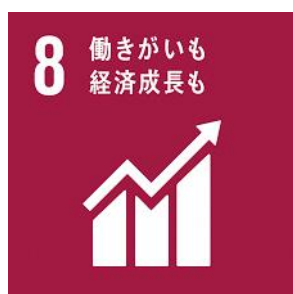
国指定史跡徳丹城跡の調査研究を継続するとともに、その成果も踏まえて、整備事業や史跡を活用した再現事業などを展開します。

また、歴史的価値を生かして観光拠点や憩いの場としての活用を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
徳丹城跡に関するイベントの参加者数	人/年	400	600	

【SDGsゴールとの関わり】



施策③－ 9

伝統芸能の後継者育成支援

【現況と課題】

町内各地で伝統芸能を伝承する多くの団体において、地域の少子化や会員の高齢化などによる後継者不足が進んでいます。また、新型コロナによる活動の中止からの再開が困難となっている団体が見受けられることから、後継者育成や団体の支援について取り組む必要があります。

【施策の方向】

伝承団体が行う後継者育成の支援に努めるとともに、伝統芸能を発表する機会の確保に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
矢巾町郷土芸能保存会登録団体数	団体	14	15	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



【施策の柱④】

まちの発展を支える持続可能な行財政運営

推進する施策

- ④－ 1 町の状況に即した土地利用計画の策定
- ④－ 2 適切な公共施設マネジメントの推進
- ④－ 3 公有財産利活用の促進
- ④－ 4 児童館の老朽化への対応
- ④－ 5 矢巾斎苑の在り方の検討
- ④－ 6 多目的室内練習施設・スポーツ健康科学センターの検討
- ④－ 7 スポーツ施設の整備検討
- ④－ 8 未来に強い行政経営の推進
- ④－ 9 住民と行政のパートナーシップの推進
- ④－ 10 持続可能で健全な財政運営
- ④－ 11 介護保険制度の適切な運営
- ④－ 12 健康保険制度の適正な運営
- ④－ 13 情報化社会の進化に対応した業務効率化と住民サービス向上(DX)
- ④－ 14 町内外に向けた情報発信の強化
- ④－ 15 広聴広報活動の効率化
- ④－ 16 上下水道事業運営の健全化
- ④－ 17 水道事業の有収率向上
- ④－ 18 水道管の耐震適合率の向上
- ④－ 19 下水道施設の計画的な更新の実施
- ④－ 20 下水道施設の適切な維持管理の実施

施策④－ 1

町の状況に即した土地利用計画の策定

【現況と課題】

国道 4 号盛岡南道路の事業化が決定され、将来町内へ延伸される見通しであり、それに伴い交流人口のさらなる増加が予想されることから、延伸ルートに合わせた将来的な土地利用の在り方を検討する必要があります。

【施策の方向】

国道 4 号盛岡南道路の計画をベースに、総合計画とともに関連する土地利用関係の計画を見直し、適切に住居及び商工業等用地の確保並びにスマート IC 周辺の開発など、今後の町の将来像の明確化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備 考
(仮称) 産業立地推進計画の策定率	%	0	100	計画策定完了をもって 100% とする。

【SDGs ゴールとの関わり】



施策④－ 2

適切な公共施設マネジメントの推進

【現況と課題】

公共施設の老朽化や管理コストの増大などが行財政経営に影響を与えることが予想されるため、中長期的な視点に立って計画的なマネジメントを進める必要があります。

【施策の方向】

公共施設等総合管理計画に基づき、町が管理する公共施設等全般の営繕や利活用、処分などを計画的に推進し、持続可能なマネジメントが可能となるよう努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
公共施設に係る運営コストの増加率	%	0	10	R5 実績比。目標値は令和6～9年度の平均値とする。

【SDGs ゴールとの関わり】



施策④－ 3

公有財産利活用の促進

【現況と課題】

公有財産の施設の老朽化が進み管理運営にかかる費用も増加傾向にある中で、将来的な人口減少も視野に入れながら、各公有財産の持つ効果が最大限に発揮されるよう適切な利活用を進めていく必要があります。

【施策の方向】

それぞれの公有財産の状況や個別の施設における大規模修繕、建て替え議論等も踏まえ、最新の官民連携手法などの活用も検討しつつ、各施設等について最も適切な方法を見極めながら効果的な利活用が図られるよう努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
官民連携手法により利活用の検討を行った公有財産件数	件	6	9	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－４

児童館の老朽化への対応

【現況と課題】

各小学校区に設置している児童館は、建築して30年以上経過している施設もあり、老朽化が進んでいます。また、小学校区の再編等の検討に合わせて整備計画を見直していく必要があります。

【施策の方向】

子どもたちの安全を確保し、安心して施設を利用できるよう「矢巾町児童福祉施設長寿命化計画」に基づき、計画的な改修を行います。また、小学校の学区再編や移転等にあわせて、利用環境の整備について検討を進めます。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
整備を行った施設数	施設/ 年	4	4	

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 5

矢巾斎苑の在り方の検討

【現況と課題】

矢巾斎苑は、建築から 30 年以上経過し施設全体が老朽化しているほか、近隣自治体の施設と比べて手狭であるなどの問題があり、今後の火葬場整備の在り方について、移転や新築の可能性を考慮しつつ検討する必要があります。

【施策の方向】

現在の施設を維持しながら、家族形態やライフスタイルの変化に対応した埋葬の在り方及び新しい火葬場整備についての在り方を検討します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 9 年度)	備考
火葬場整備基本構想の策定	%	0	100	構想策定完了 をもって 100% とする。

【SDGs ゴールとの関わり】



施策④－6

多目的室内練習施設・スポーツ健康科学センターの検討

【現況と課題】

盛岡広域圏8市町による「みちのく盛岡広域都市圏ビジョン」に基づき、広域での共同事業等を協議・実施する体制が整備されたことから、圏内の自治体等と連携して広域圏の発展に努めることが求められています。

【施策の方向】

岩手県スポーツ推進計画で整備が予定されている多目的室内練習施設・スポーツ健康科学センターについて、盛岡広域圏の中で検討を進めながら本町への誘致を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
誘致に向けた要望活動回数	回	0	5	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－7

スポーツ施設の整備検討

【現況と課題】

本町のスポーツの拠点施設である町民総合体育館について、完成から45年が経過し老朽化が進んでいることから、施設整備のあり方を検討する必要があります。

【施策の方向】

町民総合体育館の今後の施設のあり方について、長寿命化や建て替えなど様々な可能性を検討し、将来に向けた整備方針を定めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
町民総合体育館の整備方針決定	%	0	100	方針の決定をもって100%とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 8

未来に強い行政経営の推進

【現況と課題】

全国的に人口減少が進む中で、本町においても長期的な視点に立ち、限られた資源や財源を有効に活用しながらより効率的な行財政運営を進めていく必要があります。

【施策の方向】

持続可能な矢巾町であるために、目標の基軸としてSDGsの考え方を捉えるとともに、フューチャー・デザインなど最新の社会技法を取り入れながら、少子高齢化など、人口課題に向き合った持続可能なまちづくりに努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
フューチャー・デザインワークショップを実施した事業数	件	2	6	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 9

住民と行政のパートナーシップの推進

【現況と課題】

町民懇談会やコミュニティワークショップを通じて、幅広い年代の方々のまちづくりへの関心と、積極的な参加への意向が確認できることから、地域社会の担い手としてその主体性を尊重し、まちづくりへの参加を推進することが求められています。

【施策の方向】

あらゆる人がまちづくりに参加しやすい仕組みを構築し、町民の方々の意見やアイデアに耳を傾けながら、行政との適切なパートナーシップのもとに住民協働を推進します。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
懇談会・ワークショップの実施回数	回	0	24	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 1 0

持続可能で健全な財政運営

【現況と課題】

厳しい財政状況にありながらも、人口減少や技術革新など急激な社会の変化や新たな行政需要に対応するため、安定した財政基盤の確立に努めるとともに、事業の重点化等により、限られた資源や財源を有効に活用しながら、持続可能で健全な財政運営を進めていく必要があります。

【施策の方向】

財政目標を踏まえ、収入確保の取組み、歳出予算の重点化と将来負担の軽減等により持続可能で健全な財政運営に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
実質公債費比率	%	15.7	14.7	現状：R4 決算、目標：R8 決算

【SDGs ゴールとの関わり】



施策④－ 1 1

介護保険制度の適切な運営

【現況と課題】

多くの町民が介護サービスの利用を必要とせずに過ごすことができるよう、介護予防に重点を置いた施策推進が求められています。

また、地域住民が適切な介護サービスを利用することが出来るよう、介護保険財政の適正な運営を図ることが必要です。

【施策の方向】

介護予防事業を重点的に展開し、運動・栄養・口腔に係る健康教室の実施、シルバーリハビリ体操の普及、通所型サービスC事業（リアクト）などの事業展開を通じて、町民が自立して暮らし続けられるよう取り組みを推進します。

また、「通いの場」を町内に展開し、地域に必要な仕組みを模索し、生活支援サービスや介護保険サービスが利用できる体制を整え、安定した介護保険財政の運営に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
通所型サービスC事業（リアクト）参加者数	人	39	135	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 1 2

健康保険制度の適正な運営

【現況と課題】

国民健康保険及び後期高齢者医療制度は、高齢化の進展、生活習慣病の増加、医療技術の高度化等により、一人当たり医療費は年々増加傾向となっており、医療費の抑制を図る必要があります。

【施策の方向】

国民健康保険及び後期高齢者医療制度の健全な運営のため、国保税の収納率向上や、生活習慣病の重症化予防につながる特定健康診査や特定保健指導等の保健事業の強化、被保険者の健康の保持増進に取り組み医療費の適正化を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
特定健康診査受診率	%/年	47.8	55	

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－13

情報化社会の進化に対応した業務効率化と住民サービス向上 (DX)

【現況と課題】

Society5.0時代の到来と国による全国共通の行政システム標準化によって、行財政経営の分野でも今後さまざまな技術革新が進むと予想され、AI等を活用した業務の効率化や住民サービスの質の向上を図ることが求められます。

【施策の方向】

技術の進歩状況を注視しながら、AIを活用した業務の改善や、各種手続きの電子化、窓口対応の利便性改善など住民サービスの質の向上に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
行政システムの標準化による住民サービス向上基盤整備率	%	0	100	

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－14

町内外に向けた情報発信の強化

【現況と課題】

インターネットによるPR活動やふるさと納税などを通じて、本町の全国的な知名度が徐々に高まっている中、関係人口の増加や経済活性化などにつなげていくため、今後もさらなる情報発信の強化に努めるとともに、町民が町に愛着を持てるような情報発信にも努める必要があります。

【施策の方向】

町内外に向けて魅力的な情報コンテンツの充実を図り各種媒体を通じて積極的に情報発信することにより、観光客や移住者の増加、関係人口の創出などにつなげます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
町公式インスタグラムフォロワー数	人	1,700	2,300	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－15

広聴広報活動の効率化

【現況と課題】

技術革新やライフスタイルの多様化などによって、個人の情報の嗜好や情報源の多様化が進む中、町が発信する情報をより多くの方に確実に届けつつ、幅広い意見聴取を行っていくため、広報紙やホームページ以外の手法の活用にも努めていく必要があります。

【施策の方向】

情報分野における先進的技術の動向も注視しつつ、さまざまなメディアを活用しながら、より効果的、効率的な広聴広報活動の改善に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
広報分野の専門的な研修会への職員派遣延べ人数	人	5	9	累積値

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 1 6

上下水道事業運営の健全化

【現況と課題】

事業運営の安定化には収支バランスの適正化が不可欠となっています。各事業の健全化のため、経常収支比率による事業の健全化を確認する必要があります。

【施策の方向】

経営基盤が安定するよう、各事業における収支バランスの適正化に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
水道事業の経常収支比率	%	136.96	110	現状値はR4実績値。110%を下回らないよう維持する。

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 1 7

水道事業の有収率向上

【現況と課題】

令和4年度の有収率は93.7%であり、経営安定のため有収率向上が必要となっています。

【施策の方向】

計画的な老朽管更新と漏水調査等の実施により、有収率の向上を図ります。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
有収率	%	93.7	94.0	

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－18

水道管の耐震適合率の向上

【現況と課題】

令和4年度末の耐震適合率は42.4%であり、耐震適合率向上が必要となっています。

【施策の方向】

水道管における耐震適合率について、計画的に整備を実施し引き上げを行います。

【まちづくりの指標】

指標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
水道管の耐震適合率	%	42.4	48.0	

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－19

下水道施設の計画的な更新の実施

【現況と課題】

持続的な下水道事業を実現するため、計画に基づいた着実な更新を進める必要があります。

【施策の方向】

管路施設のストックマネジメント計画に基づき、計画的な管路更新を進めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
管路施設のストックマネジメント計画策定率	%	0	100	計画策定完了をもって100%とする。

【SDGsゴールとの関わり】



施策④－ 2 0

下水道施設の適切な維持管理の実施

【現況と課題】

これまで実施したテレビカメラ調査は、計画策定のための必要最小限となっていますが、適切な維持管理を進めるためには、管路施設全体の状況を把握する必要があります。

【施策の方向】

管路状態の把握のため、テレビカメラ調査を実施し、適切な維持管理に努めます。

【まちづくりの指標】

指 標	単 位	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)	備考
ストックマネジメント計画に対するテレビカメラ調査の実施率	%	100	100	

【SDGsゴールとの関わり】

